

福島第一原子力発電所から20km圏内の土壌試料の分析結果

平成23年5月19日
文部科学省

1. 測定結果

図面上 の番号	測定試料採取点	採取日	放射能濃度 (Bq/kg)											備考
			¹³¹ I	¹³⁴ Cs	¹³⁶ Cs	¹³⁷ Cs	^{129m} Te	²³⁴ U	²³⁵ U	²³⁸ U	²³⁸ Pu	²³⁹⁺²⁴⁰ Pu	その他検出された核種	
6	大熊町大字熊川(南南西約4km)	4月30日	9,500	18,000	250	17,000	8,800	6.2	0.21	5.8	不検出 (0.00089±0.00089)	不検出 (0.0067±0.0026)	不検出	
41	大熊町大字夫沢(西南西約3km)	4月29日	11,000	52,000	760	49,000	23,000	18.0	0.82	17.0	不検出 (0.0051±0.0023)	0.05	不検出	
A13	大熊町大字夫沢(西南西約2km)	5月1日	110,000	270,000	3,400	270,000	180,000	11.0	0.47	10.0	不検出 (0.0029±0.0021)	0.027	不検出	
A14	双葉郡双葉町大字山田(西約7km)	5月1日	7,200	5,000	87	5,000	7,300	5.2	0.22	5.9	不検出 (0.0009±0.0015)	0.020	不検出	

 : 今回追加したデータ

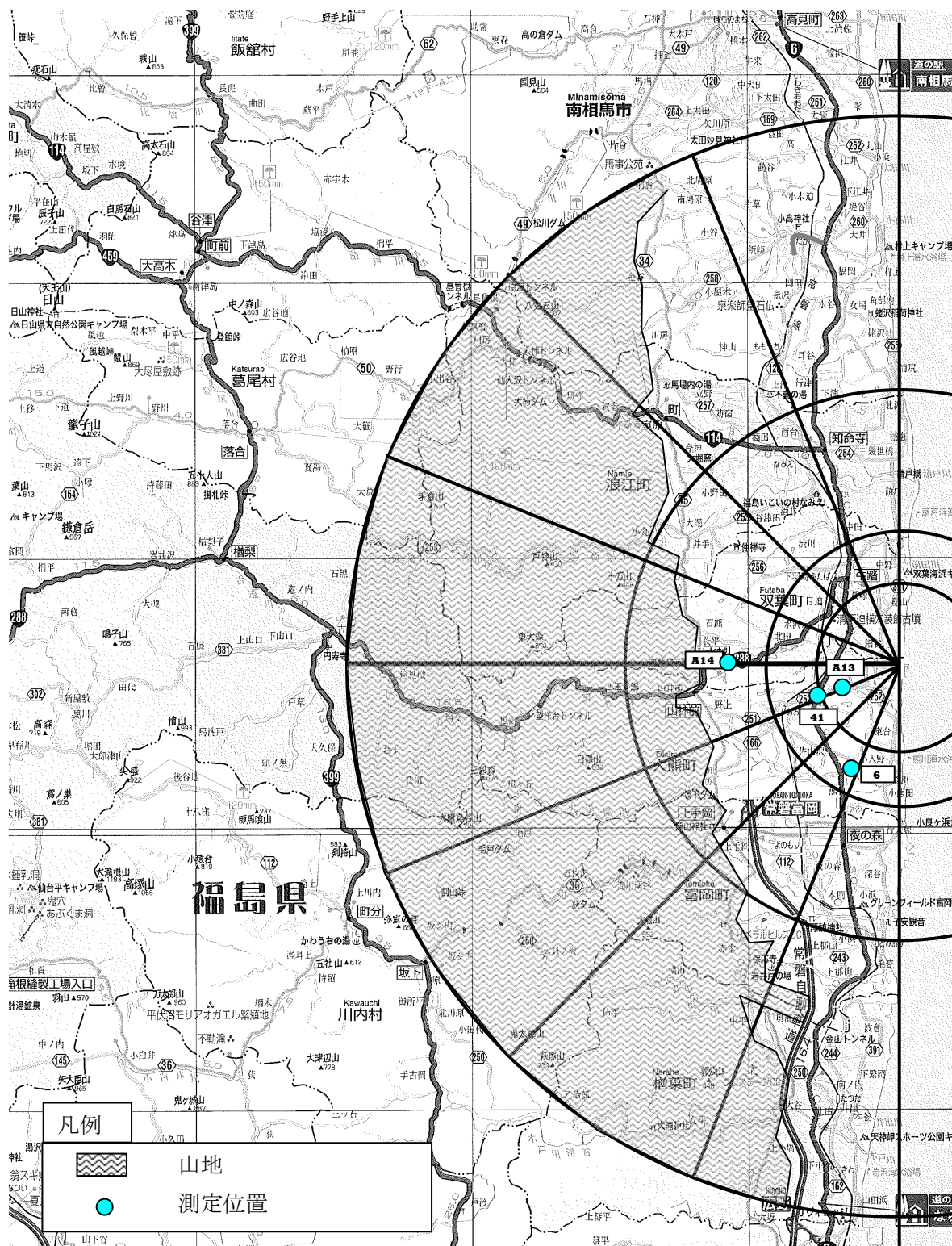
2. 結果概要

土壌中のプルトニウムの濃度について、先日、福島第一原子力発電所の敷地内において事故による放出と見られるプルトニウムの検出がなされた際のPu-238 / Pu-239+240 の放射能濃度比は1程度かそれ以上でした。今般の測定結果では、Pu-239+240は検出されているもののPu-238は検出されておらず、この点から採取地点の土壌に今回の事故によるプルトニウムの飛散はなく、過去の大気圏内核実験によるプルトニウムを検出したものと考えられます。また、ウランの放射能濃度については、U-238とU-234の放射能濃度が同程度となっており、天然に存在するウランを検出したものと考えられます。

3. 今回の分析開始日

平成23年5月3日

- (参考1) 過去の大気圏内核実験の影響として示されている放射能濃度比は0.026です。
(参考2) 検出の基準としては、A±Bにおいて、AがBの3倍より大きければ、検出されたものと判断されます。
(参考3) (財)日本分析センターによる分析です。



福島第一原子力発電所より 20km 圏内の土壌の放射性物質濃度等の測定ポイント

(試料採取日：平成 23 年 4 月 29 日～5 月 1 日)

※四角内の記載は、ポイント番号を記載。